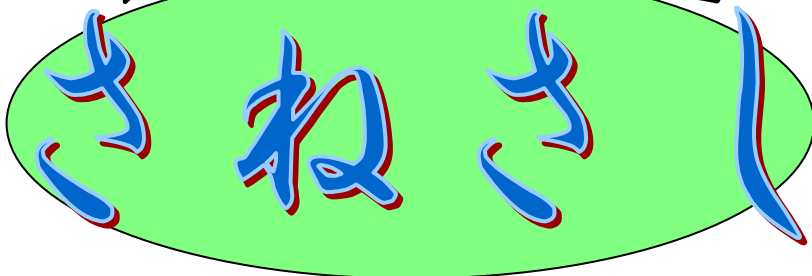


発行  
平成19年12月8日  
相模原市文化財調査・普及員  
広報グループ

文化財愛護  
シンボルマーク  
両手のひらと日本建  
築伝統の組物をイメ  
ージしたもの



～「さねさし」とは、相模国の枕詞です～

### しせきた なむかいほらいせきこうえん 史跡田名向原遺跡公園のPR事業 及び定期案内・解説開始！

市内初の遺跡公園として平成19年3月に開園した「史跡田名向原遺跡公園」で、文化財調査・普及員や地元有志により遺跡のPRイベントが開催されました。

また、11月18日（日）より文化財調査・普及員により遺跡公園の案内・解説を定期的に行っています。

#### 遺跡公園PR事業にスタッフとして活躍

11月11日（日）西部班、考古班のスタッフは8時半に集合、現地塩田の“活用しよう会”の皆さんや市職員と共にテントやのぼりの会場設営を、南部班は原当麻駅から市民を史跡案内しながら会場までの誘導と、準備は万端。



テントものほいも準備OK

時折小雨が降る中10時に会場はオープンしました。肌寒さも感じられる気温で来場者の数が心配されました

が、45分後に原当麻駅からの史跡探訪組の到着でにわかには活気づき、11時過ぎには市民ウォーキング大会の参加者約200名も到着し、会場は開園以来の大入り？になり、それぞれの案内役は大忙しでした。

地元産の新鮮なお米、野菜などが貰えるとあって、入場者のすべての人が5問のクイズラリーに挑戦、その為か古墳や縄文竪穴住居、旧石器時代の住居状遺構の前などは人、人、人のラッシュアワーが演じられ、「古墳の石はどこから持ってきたの？」「竪穴住居の柱は何の木？」など、小学生から大人まで、熱心な質問の集中砲火に説明役のスタッフも嬉しい悲鳴があがりました。

#### 目次

- ①・史跡田名向原遺跡公園のPR事業及び定期案内・解説開始！
- ②・原当麻駅～田名向原遺跡文化財探訪  
・古道・地名班大山道ウォーキング
- ③・大沼の豊口排水工跡 再発見！  
・相模野基線「百米比較室」跡
- ④・文化財マップ紹介—大山道 橋本宿—  
・文化財保護課からのお知らせ

#### 第1、3日曜日に遺跡公園を案内・解説

田名向原遺跡公園の案内は11月18日より第1、第3日曜日の午前10時から16時まで、文化財調査・普及員の西



古墳の中はどんなかな？

部班、南部班、考古班と有志が中心になり実施するようになりました。（1、2月は休止）

遺跡公園を広く周知すると共に、地域の活性化、そして何よりも文化財調査・普及員のレベルアップの為に、是非生かして行きたいと念じておりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

#### 平成21年4月にはガイダンス施設完成！

なお、平成21年4月には遺跡公園に併設して遺跡の説明や体験学習を行えるガイダンス施設もオープンしますので、益々充実した遺跡公園になると思います。

（田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会 森）

**史跡田名向原遺跡公園の案内** \*入園無料  
 所 在 田名塩田3丁目13番  
 開園時間 8:30～18:00（11～3月は17:00閉園）  
 交通機関 JR相模線原当麻駅から望地キャンプ場入口  
 行で塩田下バス停下車すぐまたは同駅から徒歩45分

## 豊富な文化財をご案内 はらたいまえき しせき た な むかいはらいせきこうえん 原当麻駅～史跡田名向原遺跡公園 文化財探訪

11月11日(日)、市内初の遺跡公園「史跡田名向原遺跡公園」を多くの方々に知っていただくとともに、遊び、学べることを目的にしたイベント「田名向原遺跡へようこそ」が開催されました。このイベントの同時開催事業として、文化財調査・普及員南部班にて、原当麻駅～田名向原遺跡までの史跡探訪を行いましたので、その様子を紹介します。

当日は小雨模様の天候で、参加者が集まるか心配でしたが、案内者も含めて10余名で実施することができました。

午前9時に原当麻駅を出発し、まず①無量光寺末寺の観心寺、②7世紀築造で石室から馬具や装

身具などが多数出土した当麻東原古墳、③あずま坂を下り、④一遍上人ゆかりの時宗の大本山、無量光寺で、市指定文化財の山門（高麗門）や広い境内を



無量光寺山門前にて！

見学しました。

次に、現在、発掘が進んでいる⑤「さがみ縦貫道当麻インター予定地」の調査現場に立寄り、

説明を聞きました。現在は、奈良・平安時代の住居跡等の調査で、今後の発掘調査による成果が期待されます。参加者からも発掘調査後の遺跡の保存等について質問があり、分りやすく説明していただき有意義な時間を過ごすことができました。

この後、⑥谷原古墳1号墳を経て、最後の目的地⑦「史跡田名向原遺跡公園」に向い、午前11時頃に文化財探訪は終了しました。参加者からは、「自然に親しみ、文化遺産に触れる楽しさを味わうことができました」という感想をいただきました。

(南部班 辻)



当麻遺跡から奈良・平安時代の住居跡が見つかりました

## 毎月第一火曜は大山道を踏査！ おおやまみち 古道・地名班「大山道を行く」ウォーキング

過去2年掛かりで相模原市内のいくつかの大山道を歩いて来ましたが、大山道でも最も華々しい街道花のお江戸、赤坂御門を起点とした「厚木街道」「矢倉沢往還」(現在の国道246号)を歩きたいと云うことで今年3月から終点の相模大山に向けてスタートしました。

赤坂御門跡は現在の政治の中心地永田町にあり、江戸時代は相模へ向かう大山道の起点でした。赤坂御門を出発して青山を過ぎ、渋谷の宮益坂へ、その後渋谷区郷土博物館で渋谷の歴史を、池尻大橋の日本地図センターでは明治15年作成の相模原地区の地図を、世田谷区では代官屋敷やサザエさんでお馴染みの長谷川町子美術館等を見学しました。

溝の口では大山道ふるさと館、電車とバスの博物館、宮前平では川崎考古研究所を訪ね、荏田宿では養老山真福寺、市ヶ尾では横穴古墳群、一里榎、医薬神社を経由して11月6日田園都市線の青葉台駅まで来ました。

一日の予定が早く終わった時は駅の近くの喫茶店でメンバー全員で、歴史話や政治・経済・年金の話などよもやま話をして、和やかにひと時を過ごしています。2～3年掛けて大山阿夫利神社までと計画しています。

(古道・地名班)



めざせ！大山阿夫利神社！

横浜市指定樹齢600年「一里榎」の前で撮影(写真)



沼の氾濫に悩まされた大沼新田

名主由左衛門の陣頭指揮で作られた「豊口排水溝」跡

とよぐちはいすいこう

昔大沼には、その地名ともなった沼があり宝永4年(1707)の淵野辺村検地水帳(中里家文書)には、池として2町8反3畝4歩(約8500坪)と記載があり、存在を裏づけています。日本武尊の火攻めの伝説などがありました。

この沼は、大雨が降り続くと氾濫し畑地に浸水して、ほどほど困り果て、名主由左衛門の陣頭指揮のもとに排水溝を作ったことが伝えられています。その跡は今如何に! 調べて見ました。

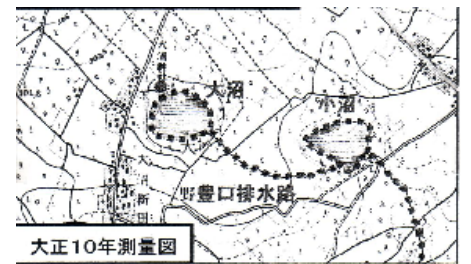
東大沼にハイシまたオハイシと呼ばれる地名が残っていて(大沼小学校裏門付近)、小方家の資料によると文化・文政(1804~1830)の頃、豪雨による氾濫があり耕作地が泥田と化したため、大久保藩に祖免を願い出て年貢が3年間廃止(ハイシ)になった所とあります。この後に排水溝が作られた可能性があると思います。

沼の中だった所にトヨナカ、南側の端にトヨグチという地名があり、トヨナカにある小さな公園には豊中公園の看板が見られます。またトヨグチの所には、昭和30年末頃まで幅3m深さ2m位の掘割があったのを覚えています。雨が降ると水が

溜まる程度でここは単なるドブ川とっていました。今は、コンクリートで蓋がされて細い道になっていますが…実は、これが沼の氾濫対策で作られた排水溝だったのです。再発見! これが豊口排水溝の跡だと確認しました。道は小沼に向かってクネクネと曲がっていますが、バラの大木を避けながら掘り進んだという伝承とも合います。



大正10年の地図にその水路が記されています。(大沼~小沼~相模大野付近の深堀川へ)農具しかなかった時代に手に血豆を作りながら…苦勞が偲ばれます。こうしたキッカケに、大沼の歴史を紐解いて行きたいと思っています。



(東部班 太田)

日本近代測量を支えた 相模野基線「百米比較室—西端点」跡

ひやくメートルひかくしつ

相模野基線の北端点、中間点、南端点は有名ですが、その後明治35年(1902)に再測量するために「百米比較室」が設けられたことは、余り知られていません。その「百米比較室」の西端点が相模台2丁目17番地にありました。

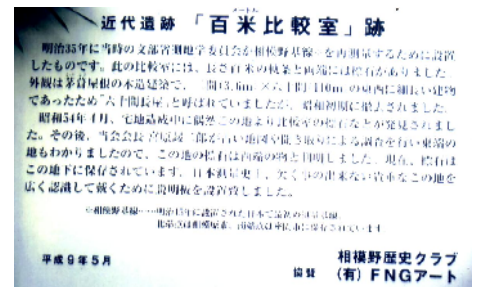
相模野基線—近代日本地図測量の基準線。明治15年にその基線の北端点は相模原市麻溝台に、中間点は座間市相模が丘に、南端点は座間市ひばりが丘一丁目に設置されました。(地名は現在の住居表示)それ以前に、局的、実験的な測量のための基線はいくつかありました



が、全国統一を目的とした基線ではこの相模野基線が日本で最初ということになります。

百米比較室には長さ百米の軌条(レール)と両端には標石があった。外観は茅葺屋根の木造建築で縦二間(3.6m)横六十間(110m)の東西に細長い建物であったため「六十間長屋」と呼ばれていましたが、昭和初期に撤去されました。

昭和54年4月、宅地造成中にこの標石が発見され西端点と確認されました。



「百米比較室」跡の標識板

(古道・地名班 光廣)

おおやまみち はしもとしゆく  
**大山道と橋本宿**

橋本地区には、両国橋から棒杭（ボンガイ）までの1.5Kmに歴史のロマンが詰まっています。

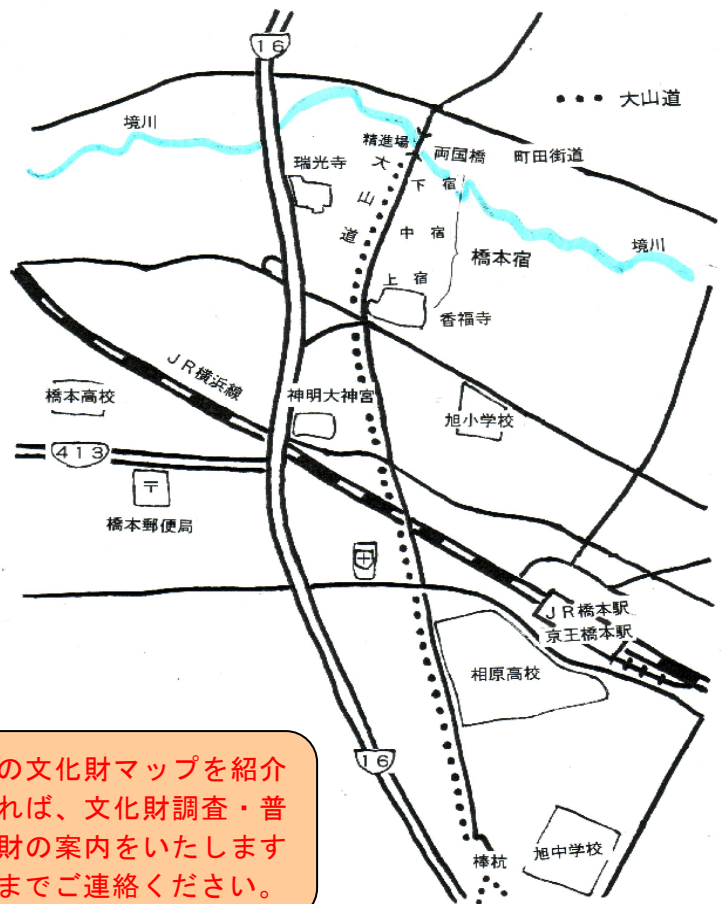
橋本宿は一番南の香福寺のところに見張番所があつてこの辺が上宿、瑞光寺の入口あたりが中宿で、相武国境の境川にかけた両国橋までが下宿でした。享保21年（1736）の村明細帳によると家数48軒、天保3年（1832）には、人家は171軒に増えています。

毎年7月の相模大山（雨降山）の山開きの頃は、武州、上州方面から参詣に行く道者たちで賑わいました。道者達は境川の両国橋近くの精進場で「六根清浄」を唱え、田名の宿場衆が大山詣での近道である旨を記した道路標識の棒杭（不動明王像を伴う道標）に旅の安全を祈りました。

上宿、香福寺脇の天神山といわれていたところに、石造物（秋葉大権現、徳本念仏塔、山王祠等）が沢山あり、その他に、牛久保家の長屋門、神明大神宮があり、この様な現地に足を運んでロマンの香りに浸りませんか。

（北部班 光廣）

**\* 次号以降も各地区の文化財マップを紹介します。ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。**



**文化財保護課からのお知らせ**

**国指定史跡 川尻石器時代遺跡 連続講座「川尻縄文文化への扉」を開催中！**

城山町谷ヶ原に所在する国指定史跡川尻石器時代について学ぶ連続講座「川尻縄文文化への扉」を開催しています。日程は、下記のとおりで、会場はいずれも相模原市立総合学習センターセミナールームです。入場無料ですので、ぜひお越しください。

- 12月16日(日) 午後2時～4時 「年代測定研究最前線～縄文集落の実像に迫る～」
- 1月20日(日) 午後2時～4時 「石器石材の選択と流通～ところ変われば石も変わる～」
- 2月17日(日) 午後2時～4時 「縄文式ネットワーク～土器が結ぶ地域間交流～」
- 3月16日(日) 午後2時～4時 「石の文化への転換～縄文社会の変動を探る～」

**文化財調査・普及員第3期登録者15名が加わりました！**

このたび文化財調査・普及員第3期登録者15名が新たに加わりました。今後、1期生、2期生とともに、文化財パトロールや文化財関係事業にスタッフとして活躍していただくことを期待しています。

その他、文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」の創刊号から9号までを相模原市のホームページで見ることができます。次の手順で閲覧できますので、どうぞご覧下さい！

相模原市ホームページ → 観光・文化（一覧を表示） → 文化財・史跡 → 文化財調査・普及員